

授業科目(ナンバリング)	ソーシャルワーク演習(共通) (DA204)			担当教員	褒孝承・丸山貴志・野田健・中村尚生		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。具体的には、自己理解と他者理解を含む自己覚知を通じてソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解し、面接やプレゼンテーション技術を含むソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養い、ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解するとともに、集団を活用した支援（グループワーク等）とソーシャルワークの記録について学ぶことをねらいとする。</p>							④⑤⑥⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	具体的な実践場面及びソーシャルワークの過程を想定した実践事例において、専門的な援助技術を使用できる。				課題レポート		20%
情報収集、分析力	実践事例における具体的な課題について、総合的かつ包括的なアセスメント及びプランニングができる。				小レポート		20%
コミュニケーション力	具体的な実践場面及びソーシャルワークの過程を想定した実践事例において、基本的な面接技術を使用できる。				課題レポート グループ発表		20% 20%
協働・課題解決力							
多様性理解力	具体的な実践事例を通して、多様な被援助者について理解できる。グループワークをする際、1人ひとりが異なる存在として理解し、他者を受け入れることができる。				グループワーク グループワーク		10% 10%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題レポート（40%）では、学んだ専門的な援助技術を正しく理解し、応用できるかを評価する。文字数不足及び誤字、脱字は減点の対象とし、未提出の場合は単位認定を行わない。グループワーク（20%）では、基本的なコミュニケーション技術を活用しながら、毎回の有意義なディスカッションに貢献できたかを評価する。ポートフォリオ上の小レポート（20%）では、毎回のグループワークの成果を適切にまとめられるかを評価する。グループ発表（20%）では、毎回のグループワークの成果を適切にプレゼンテーションできるかを評価する。フィードバックはその都度、ポートフォリオ上と授業内で行う。</p> <p>なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、担当教員がそれぞれ少人数クラスを受け持ち、15回の授業を展開する。実践事例を題材とした毎回のグループワーク（ディスカッションとプレゼンテーション）を通して、ソーシャルワークにおける各種面接及びコミュニケーション技術及びケースワーク・グループワークの展開過程への理解を深める。具体的な実践場面及びソーシャルワークの過程を想定した実技指導により、基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術及び専門的な援助技術の実技演習を行う。なお、授業の案内や課題提示等はポートフォリオを活用する。</p> <p>本科目の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『13 ソーシャルワーク演習 [共通科目]』中央法規出版</p> <p>参考書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修（2015）『社会福祉士相談援助演習（第2版）』中央法規出版</p> <p>指定図書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『13 ソーシャルワーク演習 [共通科目]』中央</p>							

法規出版			
授業外における学修及び学生に期待すること			
毎回、グループワークを実施するため、教科書の該当箇所及び事例を事前に読んでおくこと。 グループのメンバーを尊重し合いながら、積極的に発言すること、調べること、書くこと。			
回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション 自己覚知①	科目全体の説明を経て、他己紹介等のアクティビティを通してソーシャルワークにおける他者理解について体験的に学ぶ。	予習：シラバスの熟読 第1章の熟読 復習：小レポートの作成
2	自己覚知②	自己紹介等のアクティビティを通してソーシャルワークにおける自己理解について体験的に学ぶ。	予習：第2章第1節の熟読 復習：小レポートの作成
3	自己覚知③	実践事例を通してソーシャルワークにおけるクライアント理解について体験的に学ぶ。	予習：第2章第2節の熟読 復習：小レポートの作成
4	基本的なコミュニケーション技術①	実践事例を通してソーシャルワークにおける言語的な技術（応答技法）とその役割について体験的に学ぶ。	予習：第4章第1節の熟読 復習：小レポートの作成
5	基本的なコミュニケーション技術②	実践事例のロールプレイを通してソーシャルワークにおける非言語な技術（表情や身振り）について体験的に学ぶ。	予習：第4章第1節の熟読 復習：小レポートの作成
6	基本的な面接技術①	実践事例を通してソーシャルワークにおける面接の目的と特性について体験的に学ぶ。	予習：第4章第2節の熟読 復習：小レポートの作成
7	基本的な面接技術②	実践事例を通してソーシャルワークにおける傾聴・共感・支持の示し方について体験的に学ぶ。	予習：第4章第2節の熟読 復習：小レポートの作成
8	プレゼンテーション技術①	実践事例を通してソーシャルワークにおけるグループプレゼンテーション（ブレインストーミング）について体験的に学ぶ。	予習：プレゼンテーションに関する配布資料の熟読 復習：小レポートの作成
9	プレゼンテーション技術②	実践事例を通してソーシャルワークにおける個人プレゼンテーション（事例発表）について体験的に学ぶ。	予習：プレゼンテーションに関する配布資料の熟読 復習：小レポートの作成
10	ソーシャルワークの展開過程①	実践事例を通してソーシャルワークにおけるアウトリーチとインタークについて体験的に学ぶ。	予習：第5章第1節の熟読 復習：小レポートの作成
11	ソーシャルワークの展開過程②	実践事例を通してソーシャルワークにおけるアセスメントとプランニングについて体験的に学ぶ。	予習：第5章第2・3節の熟読 復習：小レポートの作成
12	ソーシャルワークの展開過程③	実践事例を通してソーシャルワークにおけるインターベンション、モニタリング、ターミネーション、エヴァリュエーション、アフターケアについて体験的に学ぶ。	予習：第5章第4・5節の熟読 復習：小レポートの作成
13	グループダイナミックスの活用①	実践事例を通してソーシャルワークにおけるグループワーク（集団を活用した支援）の構成について体験的に学ぶ。	予習：グループダイナミックスに関する配布資料の熟読 復習：小レポートの作成
14	グループダイナミックスの活用②	実践事例を通してソーシャルワークにおけるグループワーク（集団を活用した支援）の展開過程について体験的に学ぶ。	予習：グループダイナミックスに関する配布資料の熟読 復習：小レポートの作成
15	ソーシャルワークの記録	実践事例を通してソーシャルワークにおける記録方法について体験的に学ぶ。 課題レポート提出	予習：課題レポートの作成 復習：小レポートの作成

授業科目(ナンバリング)	ソーシャルワーク演習(共通)(介護)(DA204)			担当教員	久田貴幸		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。具体的には、自己理解と他者理解を含む自己覚知を通じてソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解し、面接やプレゼンテーション技術を含むソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養い、ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解するとともに、集団を活用した支援(グループワーク等)とソーシャルワークの記録について学ぶことをねらいとする。さらに、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。</p>							④⑤⑥⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	具体的な実践場面及びソーシャルワークの過程を想定した実践事例において、専門的な援助技術を使用できる。				課題レポート	20%	
情報収集、分析力	実践事例における具体的な課題について、総合的かつ包括的なアセスメント及びプランニングができる。				小レポート	20%	
コミュニケーション力	具体的な実践場面及びソーシャルワークの過程を想定した実践事例において、基本的な面接技術を使用できる。				課題レポート グループ発表	20% 20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	具体的な実践事例を通して、多様な被援助者について理解できる。グループワークをする際、1人ひとりが異なる存在として理解し、他者を受け入れることができる。				グループワーク グループワーク	10% 10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題レポート(40%)では、学んだ専門的な援助技術を正しく理解し、応用できるかを評価する。文字数不足及び誤字、脱字は減点の対象とし、未提出の場合は単位認定を行わない。グループワーク(20%)では、基本的なコミュニケーション技術を活用しながら、毎回の有意義なディスカッションに貢献できたかを評価する。ポートフォリオ上の小レポート(20%)では、毎回のグループワークの成果を適切にまとめられるかを評価する。グループ発表(20%)では、毎回のグループワークの成果を適切にプレゼンテーションできるかを評価する。フィードバックはその都度、ポートフォリオ上と授業内で行う。なお、不適切な授業態度(教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等)は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>実践事例を題材とした毎回のグループワーク(ディスカッションとプレゼンテーション)を通して、ソーシャルワークにおける各種面接及びコミュニケーション技術及びケースワーク・グループワークの展開過程への理解を深める。具体的な実践場面及びソーシャルワークの過程を想定した実技指導により、基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術及び専門的な援助技術の実技演習を行う。なお、授業の案内や課題提示等はポートフォリオを活用する。本科目の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『13 ソーシャルワーク演習[共通科目]』中央法規出版 参考書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修(2015)『社会福祉士相談援助演習(第2版)』中央法規出版 指定図書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『13 ソーシャルワーク演習[共通科目]』中央法規出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>毎回、グループワークを実施するため、教科書の該当箇所及び事例を事前に読んでおくこと。 グループのメンバーを尊重し合いながら、積極的に発言すること、調べること、書くこと。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション <u>自己覚知①</u>	科目全体の説明を経て、他己紹介等のアクティビティを通してソーシャルワークにおける他者理解について体験的に学ぶ。	予習：シラバスの熟読 第1章の熟読 復習：小レポートの作成
2	<u>自己覚知②</u>	自己紹介等のアクティビティを通してソーシャルワークにおける自己理解について体験的に学ぶ。	予習：第2章第1節の熟読 復習：小レポートの作成
3	<u>自己覚知③</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおけるクライアント理解について体験的に学ぶ。	予習：第2章第2節の熟読 復習：小レポートの作成
4	<u>基本的なコミュニケーション技術①</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおける言語的な技術（応答技法）とその役割について体験的に学ぶ。	予習：第4章第1節の熟読 復習：小レポートの作成
5	<u>基本的なコミュニケーション技術②</u>	実践事例のロールプレイを通してソーシャルワークにおける非言語な技術（表情や身振り）について体験的に学ぶ。	予習：第4章第1節の熟読 復習：小レポートの作成
6	<u>基本的な面接技術①・介護を必要とする人とのコミュニケーション①</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおける面接の目的と特性について体験的に学ぶ。	予習：第4章第2節の熟読 復習：小レポートの作成
7	<u>基本的な面接技術②・介護を必要とする人とのコミュニケーション②</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおける傾聴・共感・支持の示し方について体験的に学ぶ。	予習：第4章第2節の熟読 復習：小レポートの作成
8	<u>プレゼンテーション技術①</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおけるグループプレゼンテーション（ブレインストーミング）について体験的に学ぶ。	予習：プレゼンテーションに関する配布資料の熟読 復習：小レポートの作成
9	<u>プレゼンテーション技術②</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおける個人プレゼンテーション（事例発表）について体験的に学ぶ。	予習：プレゼンテーションに関する配布資料の熟読 復習：小レポートの作成
10	<u>ソーシャルワークの展開過程①・介護における家族とのコミュニケーション</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおけるアウトリーチとインタークについて体験的に学ぶ。	予習：第5章第1節の熟読 復習：小レポートの作成
11	<u>ソーシャルワークの展開過程②</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおけるアセスメントとプランニングについて体験的に学ぶ。	予習：第5章第2・3節の熟読 復習：小レポートの作成
12	<u>ソーシャルワークの展開過程③</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおけるインターベンション、モニタリング、ターミネーション、エヴァリュエーション、アフターケアについて体験的に学ぶ。	予習：第5章第4・5節の熟読 復習：小レポートの作成
13	<u>グループダイナミックスの活用①・介護におけるチームコミュニケーション①</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおけるグループワーク（集団を活用した支援）の構成について体験的に学ぶ。	予習：グループダイナミックスに関する配布資料の熟読 復習：小レポートの作成
14	<u>グループダイナミックスの活用②・介護におけるチームコミュニケーション②</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおけるグループワーク（集団を活用した支援）の展開過程について体験的に学ぶ。	予習：グループダイナミックスに関する配布資料の熟読 復習：小レポートの作成
15	<u>ソーシャルワークの記録</u>	実践事例を通してソーシャルワークにおける記録方法について体験的に学ぶ。 課題レポート提出	予習：課題レポートの作成 復習：小レポートの作成